

## 【1 分解説】孤独・孤立問題とは？

総合調査部 研究員 岩井 紳太郎

孤独・孤立問題とは、個人と社会及び他者との関わりが希薄になる中で、人々が孤独や孤立を感じ、心身に有害な影響を受ける問題を指します。

単身世帯の増加や働き方の多様化といった社会構造の変化により、家族や地域、会社などにおける人とのつながりが薄くなっていることに加えて、コロナ禍で社会環境が大きく変化したことで、孤独・孤立問題が顕在化・深刻化したといわれています。2023 年の内閣官房の調査では、孤独感が「ある」と答えた人は回答者の 4 割程度を占め、20～50 代で高い割合となっています。

この問題に対して、政府は 2021 年に孤独・孤立対策担当室を設置し、これまで官民連携プラットフォームの設立など様々な対策を推進しています。2023 年 5 月には孤独・孤立対策推進法が成立し、2024 年 6 月に法に基づき孤独・孤立対策重点計画を決定しました。施策についての基本方針や、取り組むべき事項として地方公共団体及び NPO 等への支援、孤独・孤立状態の予防の観点で身の回りで困っている人をサポートする一般市民「つながりサポーター」の養成等が示されています（注 1）。

今後単身世帯・単身高齢世帯のさらなる増加が見込まれ、孤独・孤立問題は重要な社会課題の 1 つとなっています。

（注 1）一般的に、「孤独」は主観的概念でひとりぼっちである精神的な状態、「孤立」は客観的概念であり、つながりや助けのない状態を指す。しかし、当事者や家族等が置かれる具体的な状況は多岐にわたり、孤独・孤立の感じ方・捉え方も人によって多様である。政府は、孤独・孤立の一律の定義の下で所与の枠内で取り組むのではなく、孤独・孤立双方を一体として捉え、当事者の状況等に応じた多様なアプローチや手法により対応することとしている。